

組織評価の改善状況報告書

平成 27 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

情報学研究科長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成26年度の改善状況を報告します。

要改善事項
基準4 大学院情報学研究科修士課程の定員割れを改善する。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
(1) 入学学生数が定員過剰の状態（平成23年度まで）から定員割れの状態（平成24年度～26年度、定員充足率90～95%）に至る過程の分析を、平成25年度中に実施する。 (2) (1)の分析結果をもとに総務委員会・入試委員会にて改善案を、平成26年度までに策定する。
改善状況
大学院入学者を増やすために、学部4年生の成績を集計し、その結果を参考にして指導教員やキャリア支援担当教員から大学院進学を勧めてもらうようにした。そして、定員60名に対して大学院入学者は25年・26年と53名であったが、27年は増加させることができ現時点で56名が予定され、さらに10月入学者が決まれば56名にその数が加わる。 また26年度は入試科目を見直した。その結果、CSコース(基礎3科目・専門6科目)では不変だが、ISコース(基礎1減で4科目・専門5減で1科目)、IDコース(基礎2減で1科目・専門2減で2科目)で入試科目を整理し受験生にわかりやすくした。さらに、受験生が遠方であっても利用しやすい募集要項とするために、26年から募集要項の印刷を止めWeb上で電子的に掲示した。
達成年度（予定を含む）
平成26年度

要改善事項
基準4 アドミッションポリシーと推薦入試・AO入試制度との関係を明確化し、推薦入試・AO入試の効果を評価し、入試制度の改善に取り組む。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<p>(1) 推薦・AO入試で入学した学生の追跡調査を、平成25年度末までに実施し、推薦入試・AO入試（特にAO入試）が、入試業務作業量の膨大さと入試が学部にもたらしめている成果・効果とのバランスを評価する。</p> <p>(2) (1)の分析結果をもとに、改善案を平成26年度末までに策定する。</p>
改善状況
<p>情報学部では、平成28年度より3学科制での学部運営になる予定である。このことを踏まえ、3学科での入試の実施方法や実施内容について検討を行った。その結果、既存2学科（情報科学科と情報社会学科）については改善案策を完了したが、新学科については、現在も検討中である。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>平成26年度 （ただし、3学科体制への移行決定が平成27年度6月頃となるため、新学科についてもこの時期までに決定する予定である。）</p>

要改善事項
<p>基準6および基準13 大学院課程において英語での発表（修論審査会、構想・中間発表、学会発表）や英語での修論執筆の機会を増やす。</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<p>(1) 大学院生が過去に、どのくらい英語で学会発表・論文発表を行ったかについて事例の調査を平成25年度中に実施する。</p> <p>(2) 大学院生を指導する教員について英語での発表・論文執筆の実情を、平成25年度中に調査する。</p> <p>(3) 大学院生・教員へ英語での発表・論文執筆の機会を増やすような支援策を平成26年度までに策定する。</p>
改善状況
<p>(1)(2)については前年度実施済みである。H26年度は、大学院2年生（総数46名）10名が21件の英語による学会発表・論文発表をしており、昨年度よりさらに件数が上昇した。また、H25年度の修士論文の英文執筆は44名中2件、H26年度は46名中1件あった（いずれも日本人学生）。</p> <p>(3)について前年度までに決定・実施している施策を、今年度も実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院生向けに、native教員によるオール英語の授業科目「Presentations in English」と「English thesis writing」を実施している。 ・H25年度に、教員の英文論文刊行に関して補助金を支給する制度を発足させた。H26年度は、英文校閲5件を補助した。 <p>また、研究科創設当初から大学院生の国際学会発表を推奨しており、奨学金の返還免除の選考にも加えている。これまでの取り組みの結果、国際学会等で多くの表彰を受けている。この点は、第1期中期計画の現況調査票でも高く評価されている。</p>
達成年度（予定を含む）
平成26年度

要改善事項
基準6および基準13 学士課程・大学院課程の学生の海外留学・訪問数を増加させる。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
学生の海外派遣を支援するプロジェクト・制度を平成25年度中に調査し、これらを活用した方策を策定する。
改善状況
<p>昨年度採択された、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度による海外派遣を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> シドニー大学（オーストラリア）短期集中コース（Australia: Land and Nation） <ul style="list-style-type: none"> プログラム実施期間：H26年12月18日～H27年1月6日 支援人数：5名 海外研究機関との研究室交流による国際的リーダー育成プログラム（工学部と共同） <ul style="list-style-type: none"> ダルムシュタット工科大学（ドイツ）へ6名 H26年11月16日～24日 香港大学へ5名 H27年1月24日～2月1日 <p>情報学部・情報学研究科の独自資金にて、国外インターンシップを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> Space-Time Engineering, LCC（米国） H26年10月25日～12月24日 2名（5名応募） <p>文部科学省の海外留学奨学金「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」（H26年度より開始）に3名が応募したが、残念ながら採択されなかった。</p>
達成年度（予定を含む）
平成26年度